

令和7年度 第2回
みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会 議事概要

日時：令和8年2月27日（金） 10：00～12：00

場所：みんなの森 ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席委員：8名 デュアー委員、市來委員、蒲委員、鈴木委員、高橋委員、田代委員、
藤本委員、松枝委員

（欠席委員：岩佐委員、川島委員、北村委員、出村委員）

傍聴者：なし

<議事概要>

1. ぎふメディアコスモスの評価指標について

（委員からの意見）

- ・アンケートによる評価は重要なものだが、限界がある。より深い所を知るためには、インタビューや行動調査をして質的に計るのが重要。
- ・メディコスがどういう方向に向かっていくかそれによって計り方、考え方が変わる。
- ・それぞれの指標が独立している。指標同士の相関、例えば貸出利用者数と貸出冊数の関係などを調べ見えてくるものが無いか探すべき。
- ・メディコスで行われるコミュニケーションの質や、生まれた共創、次なるチャレンジを計るといい。
- ・インバウンド客も成熟している。ここで過ごすことの価値、多文化に対するホスピタリティが作れるのではないか。
- ・岐阜市、岐阜県に住んでいる人でもメディコスに来たことがない人がいる。メディコスの事業を把握している市民がどれだけいるか。まだ伸びしろ、やりようがある。
- ・統計を取るよりもエピソード募集、インタビューの方がよい。特に、メディコスを使っていない人たちに聞くのが重要。
- ・まちの営みの中にも発見や驚きや新しい出会いがある。そういうことが行われる空間になればその人たちがこの可能性を伸ばしていく。
- ・海外の人に対してサインやコンテンツの意味でウェルカム感がない。無関心。
- ・滞在時間と総来場者客数をかけ算すれば満足度や消費単価の公共施設版指標として使えるのでは。
- ・滞在時間はヤフーのビッグデータやカメラの分析で割り出すこともできるのでは。
- ・日本の観光でも客数から滞在にシフトしてきている。時間がその居心地の良さや許容の力を計る端的な指標として重要。
- ・子どもたちの中でメディコスで滞在した時間の記憶はその子に決定的に植えつけられる。

これから将来、勉強している子達の行動は変わるだろう。

- ・来場者割合は19歳以下の子どもの割合が高いと推察する。彼らがここで何を見ているかということもここが生み出す価値指標として重要。
- ・外国語の案内がない。あると迎えられている、気を配ってもらっていると捉えられる。
- ・国際課の電話や窓口対応の指標は、対応が良い人がいたというのが数字に表れてしまう。
- ・ボランティアは登録数が多くてもボランティアのためのボランティアがいるような状況。サポートがないと難しい。
- ・10代の滞在時間が長いと予測できる。子どもから意見を聞いてダイレクトに取り入れていくといい。
- ・メディコスが魅力的になっているのに地域が置いてけぼり。メディコスに来たらこの店や神社に行こうなど回遊性が生まれる街にしていきたい。
- ・居心地の良い空間づくりは中間アウトカム。メディコスが中心となってスピルオーバーを作るのが最終アウトカム。数値として計りにくいのでデプスインタビューのようにやり取りをしないとイケないのでは。
- ・滞在時間は数百万かかるが大学の研究室が仕組みを確立した行動調査、流動調査がある。
- ・20年、30年後もこの施設がメンテナンスされて美しい建築空間が維持されるように目をつけていかなければならない。ハードに対しての予算立てをするように。
- ・人災、天災含めて施設の防災がきちんとされているかチェックが必要。
- ・とある地域の施設再生に関わっているが、原因は地元住民のマナーの悪さ。これはシビックプライドの裏返し。つまり、地域住民にとって重要な施設だからよそ者を入れないためにマナーを悪くしてブロックしている。この人たちの排除が再生の重要項目。
- ・(迷惑行為など) アクシデントがあったら、メディコススタッフが対処するよりも抑止もかねて警察を呼んでバトンタッチして切り替えたほうがいい。警察が来た方が市民も安心するかもしれない。スタッフが立ち向かうのはストレスだと思う。
- ・何年前か前、土岐市では図書館本来の使い方をしていないのとスタッフに攻撃的でストレスを与えるのはある種の傷害事件と捉えられ裁判の判決で出禁になった例もある。
- ・防犯カメラはカメラ自体は機能していなくてもあるという事自体に意味がある。
- ・岐阜県の外国人支援の研究をしているが、AIなどが出てきて言語的な障壁は取り除かれつつある印象。コンテンツの全部を訳さなくてもいいが、一部分は訳してあげると親切。利用者数が多いものをAIで訳し、職員の時間がある時に添削するのはいかがか。そうすれば外国人の方もより来やすくなるし、相談も増えるのでは。
- ・メディコスは複合施設なのでお互いに互換するような動きができることより充実する。
- ・これからメディコスがどこに向かっていくのかを検討する必要がある。何をしたいかの目的によって今後10年メディコスがしなければいけないことが明確になる。
- ・来場者、スタッフが居心地よく過ごしているのは建物ありき。建物のメンテナンス、ハード面は確実に予算を立て続けていっていただきたい。

- ・子ども司書の役割は図書館の中だけでなく、館外に出て価値を伝えていく役割がある。子ども司書たちはまちの逸材。まちのにぎわいの中心的な人になっていくという事が一つの広い目的であり、実際そうなっている。
- ・大学生は各大学の図書館があるためメディコスにはあまり来ない。授業や研究で必要となる書籍は専門書が多くメディコスでは見つからない。
- ・読書の調査では小学生は読書している。大学生はほとんど読んでいない。しかし、小さい頃に図書館を使っていれば大学生の時に図書館に行く暇がない人でも、また図書館に行きたくなる。そういう人を育てるのが大事。10代20代は本を借りていないだろうが、その人たちが後で図書館を使う市民になっていく。
- ・岐阜大学の子にヒアリングしたことがあるが、地理、交通が一番のネックと言っていた。
- ・大学生がメディコスを課外活動の場や調査の拠点、研究を展示できる場としての使う展開はあるかもしれない。
- ・もっと大学生が関り、メディコスの質を上げていくような活動の場になっていくと良い。
- ・修繕にお金がつくかというのは予算提案者による。だから評価指標がいる。評価指標、つまり行政の評価で岐阜市にとって大事だから、最優先に投資したほうが良いという優先順位を決める時に評価指標が利く。
- ・メディコスに130万人の来館者があるのは普通の観光施設よりもすごい吸引力をもっている。メディコスは早く「メディコス基金」を自治体の中に作るべき。企業、個人から寄附を受け付け、貯めて置ける仕組みを早めに装備すべき。そういう状況を予防的に作って備えておくべき。